

現 状

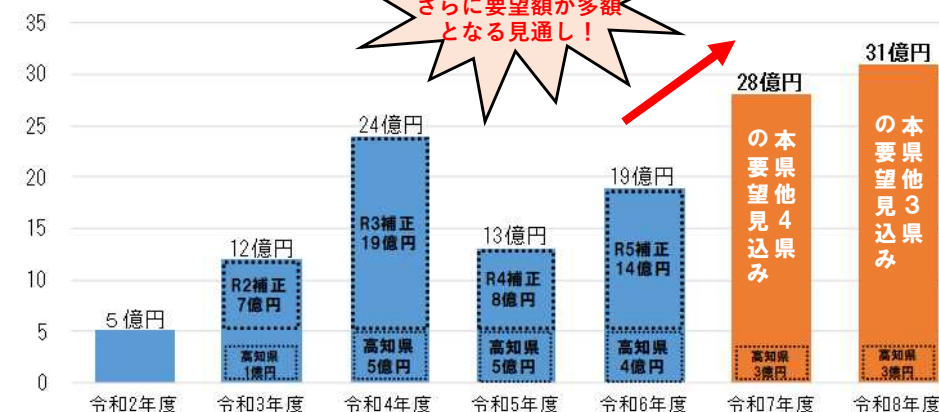
- 管理型産業廃棄物最終処分場は、水処理設備等の施設構造に一定の基準が設けられており、多額の整備費を要する施設である。
本県をはじめとした産業廃棄物の排出量が少ない地方では、施設の整備規模自体は小さくなるものの、整備費を賄えるだけの料金収入が見込めず、民間事業者による整備は難しい状況。
- 加えて、近年の環境意識の高まりや、事業の継続性、信頼性という理由からも、地元の理解が得られにくくなっており、**公共関与による施設整備の必要性がさらに高まっている。**
- 公共関与による施設整備にあたっては、産業廃棄物の排出量が少ない地方では、**都道府県や市町村からの補助などにより整備費を賄う**必要があり、そのことが**地方公共団体にとって大きな負担**となっている。

課 題

- 本県では、現行施設の埋立終了時期を見据え、現在、施設本体工事等を進めており、令和4年度から9年度までの5年間の整備を予定。
- 本県をはじめとする複数の県が、公共関与による管理型最終処分場の整備に取り組んでおり、**令和7年度以降、さらに国庫補助の要望額が多額となる見込み。**
- 国庫補助金は大変貴重な財源であり、**財政力の脆弱な本県及び県内市町村にとって、交付額の水準が負担の軽減に直結。**
- 国庫補助額を満額確保できなければ、必要な財源の確保が困難となり、施設の整備計画の見直しなどが必要となる。**
➡ **新たな施設の整備が、現行施設の埋立終了時期に間に合わなくなる恐れがある。**

国庫補助金の予算額の推移及び要望額の見込み
(R6. 3月時点 ※高知県調べ)

(単位：億円)



<参考> 公共関与の最終処分場の整備に係る国庫補助制度

- 廃棄物処理施設整備(課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業)交付金
廃棄物処理センターが実施する施設整備費の交付対象経費の**1/4**を
上限に、都道府県の負担額と同額を補助

提 言

工事期間中の複数年度にわたって確実に補助金要望額の満額を交付できるよう、**現行の国庫補助制度の継続**と**十分な予算額の確保**が必要。

産業廃棄物及び最終処分場の状況

全国状況

〈産業廃棄物の排出量推計値(R3実績)〉

全国総排出量 37,057万トン		
1位	北海道	3,812万トン
2位	東京都	2,434万トン
3位	千葉県	1,939万トン
}		
45位	山梨県	159万トン
46位	奈良県	140万トン
47位	高知県	132万トン

出典：環境省公表資料による

〈最終処分場の設置状況(R4年4月1日現在)〉

設置数 埋立容量		
最終処分場全体	1,568施設	82,857万㎡
うち遮断型処分場	22施設	22万㎡
うち安定型処分場	931施設	25,217万㎡
うち管理型処分場	615施設	57,618万㎡

このうち、公共関与の管理型処分場は83施設

→埋立容量は、22,015万㎡であり、
管理型処分場全体の約4割を占めている

本県の状況

〈産業廃棄物の処理状況(R元年度実績)〉

高知県総排出量	1,330千トン	100%
うち再生利用量	1,014千トン	76.2%
うち減量化量	274千トン	20.6%
うち最終処分量	42千トン	3.1%

〈最終処分場の設置状況(R4年4月1日現在)〉

最終処分場全体	13施設
うち遮断型処分場	中四国に施設なし
うち安定型処分場	12施設(全て民間)
うち管理型処分場	1施設(公共関与)

出典：令和2年度高知県産業廃棄物実態調査による

- 最終処分量の多くを安定型品目が占めており、**管理型処分場(エコサイクルセンター)**への搬入量は、約8千トン/年。(R4年度実績)

〈エコサイクルセンター(現行施設)〉

- 本県唯一の管理型産業廃棄物最終処分場。
- 整備費の大半を、県及び市町村が負担。
- 運用可能時期が令和9年9月頃までとなる見込み。



平成23年10月開業
(埋立容量：約11万㎡)

新たな管理型最終処分場の整備に向けた取組

- ★現行施設の埋立終了時期を見据え、令和4年度から本格的に施設本体や進入道路の工事を開始。
- ★新たな施設の規模は、現行の2倍程度としており、現行施設よりもさらに多額の整備費を要する見込み。
- ★新たな施設では、利用料金を可能な限り引き上げるが、整備費のごく一部しか賄えず、前回は大きく上回る県及び市町村の負担を見込む。

取組の特長

- 候補地選定の過程を可能な限りオープンにするなど、**透明性を確保**。
(客観的・科学的な選定プロセスを経て、約2年(H29.4~R元.6)で建設予定地が決定)
- 安全安心な施設の整備・運営に向けて、**住民の意見を可能な限り反映しつつ、専門的な見地から整備水準を適正化**。
- **住民の信頼醸成に資する施設として、全国の先進事例になり得る。**

〈完成予想図〉



【新たな施設の概要】

- 埋立面積：約1.6ha(現行施設の約1.3倍)
- 埋立容量：約20.6万㎡(現行施設の約2倍)※覆土に要する容量を含む
- 埋立期間：20年間(現行施設と同様)
- 施設構成：被覆型の処分場とし、処理水は無放流とする(現行施設と同様)